

(臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、患者さんの診療情報および研究用に保管された検体を用いて行います。このような研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(令和 4 年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号)」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の連絡先へご照会ください。

JGOG1086S

【研究課題名】 子宮頸部すりガラス細胞癌の臨床病理学的調査研究

【研究代表機関名・研究代表者名・所属】

北海道大学大学院医学院・渡利 英道・生殖・発達医学講座 産婦人科学教室

【共同研究機関】近畿大学はこの機関にあたります

特定非営利活動法人婦人科悪性腫瘍研究機構(JGOG)子宮頸がん委員会および JGOG 登録参加機関

https://jgog.gr.jp/institution/institution_map.html

【ゲノム解析施設・責任者】

＜ゲノム解析責任者＞

北海道大学病院 先端診断技術開発センター・特任准教授 畑中 豊

北海道大学病院 先端診断技術開発センター 生体試料管理室・特任講師 畑中 佳奈子

慶應義塾大学病院 腫瘍センター 教授 西原 広史

慶應義塾大学病院 腫瘍センター 助教 加藤 容崇

＜解析機関1＞

北海道大学病院 先端診断技術開発センター

解析担当:畑中 豊、畑中 佳奈子

所在地:北海道札幌市北区北14条西5丁目

連絡先: 011-706-5716

＜解析機関 2＞

北海道大学遺伝子病制御研究所 分子神経免疫学分野(免疫染色)

解析担当:村上 正晃

所在地:北海道札幌市北区北 15 条西 7 丁目

連絡先: 011-706-5121

＜解析機関 3＞

公益財団法人かずさ DNA 研究所(遺伝子発現解析)

所在地:千葉県木更津市かずさ鎌足二丁目 6 番地 7

連絡先:0438-52-3944

担当者:佐賀 敦子

<解析機関 4>

慶応義塾大学病院 腫瘍センター

解析担当:西原 広史、加藤 容崇

所在地:東京都新宿区信濃町 35

連絡先:03-3353-1211

<解析機関 5>

社会医療法人北斗 北斗病院 腫瘍医学研究所(遺伝子変異解析)

解析担当:加藤 容崇

所在地:北海道帯広市稲田町基線 7 番地 5

連絡先: 0155-48-8000

<解析機関 6>

三菱電機ソフトウェア株式会社電子システム事業統括部通信機事業所バイオインフォマティクス部(遺伝子変異解析パイプライン)

所在地: 兵庫県尼崎市塚口本町 5-4-36(富士テクノスクエア)

連絡先:06-4961-8861

担当者:野原 祥夫

【検体保管】

<保管責任者>

北海道大学医学院生殖・発達医学講座産婦人科学教室 松宮 寛子

<保管機関>

北海道大学医学院生殖・発達医学講座産婦人科学教室

保管担当:松宮 寛子

所在地:北海道札幌市北区北 15 条西 7 丁目

連絡先: 011-706-5941

【研究目的】

本研究では稀少癌かつ診断が難しいと言われている子宮頸部すりガラス細胞癌に対して、全国より集めた病理組織標本の中央病理判定を行い、その予後解析を行う事を主たる目的としています。また、予後不良例に対する新規の治療ターゲットの同定や、診断のマーカーとなる分子の探索を副次的な目的とします。

【研究背景】

子宮頸部すりガラス細胞癌は従来悪性度が高く予後不良な疾患で、妊娠・産褥期に診断される癌のうち、子宮頸部すりガラス細胞癌の確率が高いことから、妊娠・出産と関連があると言われてきましたが、近年相反する報告も複数認められ、今まで言われてきたことが正しいのか否かはっきりとした結論が出ていない部分があります。これは稀

少癌でまとまった規模の報告が無い事によるものと考えられ、発生頻度が少ない事から、全国での調査を計画しました。

【研究方法】

患者さんの病理組織標本を集積し、2014 年の WHO 分類に沿った病理組織診断を行います(中央病理判定)。

さらに、稀少癌である事により大規模データが無く、疫学的な調査、治療内容と予後の分析等を行い、疾患全体の特徴を明らかにします。また、次世代シーケンサーを用いた解析は全症例が対象となり得ますが、中央病理判定の結果と標本の年代を総合的に判断し選別します。解析により、この疾患に効果的な治療ターゲットや、診断につながるマーカーの探索等を行います。

【研究対象】

2002 年 1 月から 2021 年 12 月までに子宮頸部すりガラス細胞癌と診断された患者さんを対象とします。

【利用する検体・情報】

検体:病理組織診断に用いたヘマトキシリン・エオジン染色標本

未染標本 10 枚

(次世代シーケンサーを用いた解析を行う場合は、さらに未染標本を 10 枚)

※次世代シーケンサーを用いた遺伝子解析を行った場合には DNA の配列やコードされたタンパク質を収集したデータを取得します。

情報:下記情報を診療録より取得します。

年齢(治療開始時)、身長、体重、妊娠歴(経妊回数、経産回数)、月経歴(初経年齢、閉経の有無、閉経年齢)、診断時期と直近の妊娠・分娩時期、周産期に診断した場合の分娩様式(経陰分娩、帝王切開)、妊娠初期の子宮頸部細胞診の結果、既往歴・合併症、、腫瘍径、、臨床進行期、画像・病理所見、HPV(型判定ないしはハイリスクグループ)、治療内容、転帰等、腫瘍マーカー値

送付方法:

上記の検体は、病理組織診断(中央病理判定)および腫瘍の遺伝子解析のために研究事務局である北海道大学大学院医学院発達医学講座産婦人科学教室に送付します。上記のカルテ情報は、NorthNet の EDC (Electronic Data Capture) システムを用い、オンラインで入力を行います。

なお、本研究で取得した試料・情報を将来別の研究に利用する場合は、改めて倫理委員会の審議・承認を得たうえで行います。

【研究実施期間】

実施許可日から 2025 年 3 月 31 日

【外部への試料・情報提供について】

研究代表機関へのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。患者さん個人とデータおよび試料とを連結するための対応表は、近畿大学の研究責任者が保管・管理し、外部への提供は行いません。

【情報公開について】

この研究は、代表研究機関である北海道大学病院の生命・医学系研究倫理委員会の承認を得た後、近畿大学医学部倫理委員会 (<https://www.med.kindai.ac.jp/rinri/index.html>) で審査・承認を受け、医学部長による実施の許可を受けて行われます。すでに記録されている臨床情報と手術で得られた試料の余剰検体をもとに行われるため、対象となる患者さんにあらたにご負担をおかけすることはありません。また、この研究の結果は専門の学会や学術雑誌に発表されることがあります。

もし、この疫学研究にご自身の情報を使用されることに同意されない方は、担当医師へご連絡ください。解析対象から除外させていただきます。同意されない場合でも、診療上であなたが不利益を被ることは一切ありません。また研究に関して、ご不明の点がございましたら、いつでも担当医師へお問い合わせください。

なおご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ます。

【試料・情報の管理に責任を有する機関】

近畿大学医学部

北海道大学病院(研究全体に関して)

【当院の問い合わせ先】

近畿大学病院 産婦人科

研究責任者: 中井 英勝

所在地: 〒589-8511 大阪府大阪狭山市大野東 377-2

電話: 072-366-0221 (内線 3215)

【代表機関事務局連絡先】

北海道大学病院 産婦人科

事務局担当者: 石塚 泰也

所在地: 〒060-8648 北海道札幌市北区北 14 条西 5 丁目

電話: 011-706-5941 (産婦人科医局)